

大阪府退教情報

2023年10月23日

発行第38号

発行者:大阪府退職教職員連絡協議会 代表:林誠子

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11 大阪教組気付

電話 06-6762-7999

第29回日退教「組織」活動交流集会開催

去る10月13日、全国各都道府県の単会参加により組織活動交流集会在東京ラポール日教済ホールで開催された。開会にあたり主催者を代表して竹田邦明会長が「高齢者の生きやすい社会はどの世代も生きやすい社会。岸田政権に抗するためにも小さな取り組みを少しずつ積み重ね、全国連帯でより良い社会をつくっていこう」と述べました。



全体会では平岡良久日退教事務局長から基調提案とともに「2023組織状況調査」結果とそこから見えた課題、とりわけジェンダー平等への取り組みについて詳細な報告がありました。以下要点を報告します

◆組織の状況について。

8月現在の会員数約40,953名で前年度比約2,397名の減少となっている。現職組合員の減少の他、老衰死などコロナ禍の影響が大きく作用したと思われる。新規加入者は1,296人。昨年比216人の伸びとなっている。女性会員は報告のあった55単会で14,638名。会員数の36%となっている。11単会で女性会員ゼロ。組織拡大については、今年度から定年延長となり、来春には退職者がいない事態となる。再任用者とともに未加入退職者の加入促進を進める必要がある。

◆女性参画状況とジェンダー平等の取り組み

役員に女性の占める割合は着実に前進している。事務局長の4単会は変わらないものの会長は6単会から7単会に増え、副会長は25単会から29単会に増えた。福岡県では議決機関への女性参画率を5割にし、役員選考の段階から女性が入ることを意識化している。調査の回答には昨年同様、ジェンダー平等の方針とともにジェンダー平等学習会の開催や、ジェンダー平等を阻む要因を探り乗り越えていくことが重要との問題提起があった。各単会が意識して総会代議員や女性会長を選出する取り組みの重要性を訴える単会もあった。

日退教が様々な機会に女性枠を広げたことに対する賛同の意見もあった。

その後二つの分科会に分かれ、平和や人権・組織・教育・文化の取り組みが多数報告されました。広島からは、教材集「広島ノート」から「はだしのゲン」が「被爆の」実装に迫りづらいとして削除されたことに対し撤回を求める運動に取り組んでいること、大分からは、戦争体験や沖縄などを題材に朗読劇を創り学校や地域、労働組合などに出向き公演活動に取り組んでいること、神奈川高退教からは、安部元首相国葬決定違憲訴訟の取り組みなどの報告があった。議論の中で大阪として「憲法9条を誇りにする会」の沖縄と連帯する取り組みや、7月26日実施の学習交流会で「今後10年を見据えた組織づくりとジェンダー平等、豊かな活動創出など」について単会報告を交えながら学習交流を深めたことなどを報告しました。

(文責:青柳 隆)

本年4月の富田林市議会議員選挙で6期目の当選を果たしたたつみしんじ議員。2003年に初当選以来、日政連議員として5期20年間、富田林市民のみなさんとともに「地域のつながりや、人が大切にされる市民目線・市民本位の市政を」という思いで議員活動に取り組んでこられました。

自身が、中学校時代に障がいのある仲間とともに学んだことや、地域の解放運動を通して、あらゆる差別をなくし、人が大切にされる社会の実現に向けてボランティア活動に参加してきた豊富な経験をもとに様々な行政政策を提案し実現してこられました。



これまでの20年の間には市議会議長も務め、“とんだばやし未来”会派の幹事長としても活躍されており、最近の議会では、

1. インターネット上の人権侵害への対応について

インターネットやSNSによる誹謗中傷や差別等の人権侵害に対するモニタリングの実施を要求。

2. 庁舎整備の課題に対するデジタル技術を活かした対策について

新庁舎整備に向けての取り組みで、来年度以降安心して来庁できるように市民に分かりやすい情報の提供に努める、ワンストップで対応できる対策を要求。

3. すべてのこどもを、応援するまちづくりについて

内閣官房のこども未来。戦略方針を受けて、こども・子育てプラザの整備について具体的な方向性を要求。など、富田林市の市民の命と暮らしを守るため数々の質問を行ってこられました。

これからも、①サステナブル「持続可能な」のS。高齢化率30%を超えるまち富田林市の人口減少は待ったなしの課題。②サポートのS。「であい、ふれあい、たすけあい」をテーマに、誰もが安心して暮らせる、地域共生のまちづくり。③サービスのS。地域の先達が残してくれた「最後の一人の立場に」という思いを大切にして、「人を大切にする」行政や社会サービスの充実。この3つのSに思いを込めて、地域とつながり、そして、人とつながる。議員活動を通してつながりのまちをめざしたいと決意されています。私たち南河内退職者会はそのようなたつみ議員をこれからも支援していきます。

(文責：小川訓史)

原発処理水海洋投を考える

③

原発の核物質に直接汚染された水を

どこの国も海に捨てていない、日本だけ！

前回に続き、原発ジャーナリスト鳥飼弘道さんの報道を私流に納得したことを書いてみます。世界で原発を動かしている国は、その排水を海に流しているというのが★直接核物質に触れた水を放出している国は日本以外にない。他の国々は、燃料棒に触れた水はループを作り外には出さない。冷却による温排水にトリチウムが含まれるのは、核施設が近くにあるためH₂Oの水素の一つがT(トリチウム)に代わりトリチウム水HTOとなるためという。☆日本の汚染水は燃料棒がメルトダウンしたデブリに直接接触した水なのだ。トリチウムだけという説明のまやかしか。

(林 誠子)